

# 利用者の楽しみを引き出す支援

## ～趣味を主にした実施を通して～

16CC05 氏名 沖林晃太

### I. はじめに

介護老人ホームとは介護保険上の定義では介護老人福祉施設と呼ばれている。私は他の利用者同士でのコミュニケーションは良好であるが余暇の時間が退屈であるという利用者に出会った。そのため、余暇の過ごし方で利用者の楽しみを引き出せるような時間を作ろうと考え介護計画を実施したのでそこで学んだことを報告する。

### II. 実習先種別・実習期間

介護老人福祉施設

2017年6月26日～7月28日（うち23日間）

### III. 事例紹介

氏名 A様、 年齢 90歳代、 性別 女性

#### 1. 家族構成及び生活歴

A様、長男、次男、長女

長男夫婦と暮らしていた。 デイサービスを使用（月～土曜）

#### 2. 入所に到った理由

元々ショートステイを利用していた。H27年に自宅で右手首を骨折、下肢筋力低下によって転倒する機会が多くなり、認知症の進行も著しく見られたためショートステイ、ロングステイを利用しそのまま入所

#### 3. 健康状態

過活動膀胱、認知症、運動器不安定症

#### 4. 日常生活の状況

##### (1) 移動

常時車いすを使用、上肢での自走可能、手すりなどがあれば立位可能、歩行器を使用し訓練をしている姿がみられた。

##### (2) 食事

食事形態は一口食、自力摂取は可能、義歯をつけている、食事は車いすにて摂取、A様要望により朝はパン食になっている

##### (3) 排泄

トイレに行きたいという要望あり(尿意あり)、トイレにて排泄を行う。手すりと介助者の支があれば立位は可能である。

##### (4) 入浴

お風呂用車いすに移り行う。体は声かけを行えば一部実施可能。「お風呂は好きだが長湯はいやだ」とおっしゃっていた。

#### 5. 性格

穏やかで優しい、いつも時間を気にかけてくれる。

#### 6.1 日の過ごし方

常時車いすに乗っている。毎日記録をつけていたり、他の利用者と会話をして余暇な時間や1日をすごされている

### IV. 介護の実際

#### 1. 課題の発見と分析

A様が「退屈な時間があるが何もすることがない」とおっしゃっていたこと、他者とのコミュニケーションは良好であり、書道が趣味だが普段は行っていないということから趣味を主にしたレクリエーションを行うことで毎日の楽しみ、コミュニケーション能力の維持、向上につながるのではないかと考えた。また、作成した書道に関するものを車いす自走が可能なおことからA様本人が掲示場所にはりに行く機会を設けることで身体的な自立の維持につながるのではないかと考えた。

情報の解釈を考える。

## 2.介護上の課題

上記のことから、A様の趣味である書道に関する作品を作成しそれを掲示する場を設け、毎日の楽しみを見つける必要があると考えられました。

## 3.介護目標

長期目標：本人の思いを尊重した日常生活を送ることができ、残存機能の維持・向上になる環境をつくる

短期目標：施設生活に楽しみを見出す

## V. 実施及び結果

### 1 7月12日 16:00～16:20分

今回はA様の好きな言葉やキーワードを出してそれにちなんだもの「和」、「夏野菜」などを筆ペンで書いていただいた。途中私が書いた字「西瓜」を見ていただきポイントなどをA様から教えていただくこともできた。

#### 評価

教えていただいたときはA様も笑顔でしっかりと書き方を教えてくれたためこの行動を続けていこうと考える。しかし漢字など書く際忘れていた字もあるためお手本などを用意することが必要だと考える

### 2 7月17日 16:00～16:30

今回は漢字が書いてあるワークブックを持参しそれを見て選んでいただき今回は他の利用者にも「心」という字を書いてもらうことができた。実施終了前にA様がワークブックを開き気になった字を「筆ペンで書きたい」とおっしゃり、A様の意思でワークブックに載っていた「解答」という字を書いていただけたことができた。

#### 評価

今回、漢字のワークブックを持参したことによりA様や他の利用者にも興味を持っていただくことができ、さらにはA様が自分の意思でワークブックを開き載っている字を書いていただけたことができた。今後も今回と同じように実施をし、簡単な言葉などから他の利用者と一緒に行えるのではないかと考える。

## VI. 考察

今回私が実施したA様の趣味である書道の実施は達成することができた。しかしこの実施では実習生の私がA様を中心に介護過程を展開したことで出来たにすぎない。物品（字を書ける物）、例を用意し声掛けを行えば自ら実施してくれるのではないかと考えた。吉岡は「楽しさの追求を通した、生きがいや張り合いのある生活の実現を支援すること」は、「生活のリ・クリエイト」とし、A様の楽しみである書道を実践することで施設生活に張りや生きがいが生まれたのではないかと考えられえ。

## VII. おわりに

今回の事例研究を通して、コミュニケーションが良好な利用者の余暇の過ごし方についての計画立て実施を行ってみたい意欲の引き出し方や趣味の話からの工夫の仕方、について学ぶことができた。

今後は今回学んだことを将来に生かして行きたいと思う。

## 参考・引用文献

1)吉岡尚美、マーレー 寛子、小池和幸ら、「楽しさを追及を支える理論と支援の方法」『理論に根ざした福祉支援レクリエーションの方法』 公益財団法人日本レクリエーション協会 2013年